

## 本町地区医学科学生パソコン室の現状と問題点

医学研究科学務グループ 渡邊 篤  
大学院医学研究科 松谷秀哉

### はじめに(これまでの経緯)

情報社会の到来と共に、医学教育においても情報教育・情報機器が必須となり、医学科において学生パソコン室を 1999 年 3 月に設置した。設置当初、他学部のパソコン室と大きく異なっている点があった。それは、総合情報処理センターのシステムで導入されたパソコン (51 台) だけでなく、医学部で購入したパソコン (1999 年 3 月導入 : 50 台、2000 年 1 月導入 : 12 台) が混在したことである。これらはハードウェアだけではなく、OS や Office ツール (ワープロ、表計算など) などのソフトウェアも必ずしも同じではなかった (バージョンの違いなど)。しかし利用者から見た場合、どのパソコンを使ってもほとんど違和感無く同様に使用できるようになっていた。その反面、管理・運用が複雑になり管理する側にとってはかなりの労力を強いられた。この状況は、2003 年の総合情報処理センターのシステム更新で解消されたが、2007 年には医師不足による医学科の学生定員が 10 人の増員が認められた事から、再度、パソコンを 10 台追加購入する事となった。幸いにして、2007 年の総合情報処理センターのシステム更新の作業中であったため、ハードウェアやソフトウェアをはじめ管理運用を導入システムと一元化する事が出来た。

医学科学生パソコン室は縦長の教室であり、端末は横の 1 列に 8 台並べてこれを縦方向に 14 列配置している。最後部に入出口が設置されている。当初、部屋を管理できる人員がないため無人での部屋の管理を前提としていたため、カードによる自動ドア開閉システムになっていた。不正利用防止のため、利用説明会を開催し受講したもののみカードを配布し、卒業時には返却する事になっていた。しかし、平成 17 年度に自動ドアシステムの故障や独法化から、守衛による定時の施錠・解錠する方式に変更になった。

### 現状と要望・問題点

医学科学生パソコン室の利用時間は、平日 (月～金) の午前 9 時から午後 9 時までであり、利用終了の 10 分前から 3 回 (午後 8 時 50 分、55 分、58 分) にわたり予鈴が鳴り部屋からの退出を促す。そして午後 9 時以降は、一時的に消灯するようになっている。現在、利用時間であれば誰でも自由に入出入りする事が出来る。設置機器については統合情報処理センターを介しての保守、消耗品 (用紙、トナー) については在庫が切れ学生から連絡があった時点での統合情報処理センターを介しての発注、となっているが、以下の点で要望がある。

#### 1. 学生から土日祝日の利用について要望がある。

現状、土日祝日の利用については、特段の事情 (学生団体主催による模試等) がある場合に限り、本町地区の講義室借用と同様の手順を踏んだ上で貸し出しを行っている。

そもそも上記のような貸し出し運用にて問題ないのかという疑義もあるが、これでは団体等利用者および利用目的が明確な場合にしか対応できず、そうでない場合の、

特に個人利用について、是非検討をお願いしたい。

2. 設置機器の保守管理について、トラブル発生時の対応について画一的なマニュアルの整備をお願いしたい。

また、特にプリンターは利用頻度が高く、定期的な保守整備を是非お願いしたい。

3. 消耗品について、特に繁忙期は無くなってからの発注では学生の利用に応えることができないため、在庫の増加、および発注の在り方について検討をお願いしたい。

4. 利用状況について、授業以外では学生の自主性に任せており、また飲食禁止を掲示にて明示してはいるが、飲食物の容器等、ゴミが廃棄されずに室内に溜まっていることがある。

他にも、床面に綿ゴミ等が溜まっており機器に悪影響が出る懸念がある。定期的な清掃について検討する必要がある。

また、現在パソコン室内部にてパーティションで仕切られている小部屋がある。機器等設置して運用しているわけではなく、消耗品（用紙）の在庫置き場と化しているが、特にゴミ等が溜まる場所という側面も有しているため、パーティション等の撤去を含め利用の在り方について検討する必要がある。

5. プリンターの印刷枚数について、上限となった場合は学生からの申告に基づき 100枚単位で増やす手続きを行う方法を現状、取っているが、他学部と運用が異なり、また事務的に煩雑である。

制度としての画一化、事務作業の見直しについて検討をお願いしたい。

6. 学生カードを用いた入退室管理は現状、行っていない。今後、取っ手のついた一般的な扉への変更を検討していきたい。開け閉めするのに不便であり、かつ、冬季間室内の暖房を管理する上で非常に問題となっている。

7. サーバの学生の利用容量について、医学科学生の利用によりサーバ容量が圧迫されている旨の話を伝え聞いているが、学生側からは容量の拡大を求める声もある。

利用容量について、学生の自主管理に任せるのではなく一定の基準による削除を行うことも必要かもしれないが、容量の拡大についても検討をお願いしたい。

併せて、授業等で利用する映像データ配信のためのストリーミング関連の機材について、整備をお願いしたい。

全般的に、学生は利用条件等の向上を、事務は手続等の簡素化を、それぞれ求めている。すべてを来期から行えるとは到底考えてはいないが、実現可能な部分については早期に、検討が必要なものはできるだけ早く検討に着手することをお願いしたい。

## まとめ

ところで以前(2001年)にも、広報誌 HIROIN において同様の検討をおこなっている[1]。再度、読み直してみると以前から問題視されている点について、やはり解決されずに現在に至っている事が分かる。特に、個人のモラルによる点が今後もあまり改善が期待できそうにないところが歯がゆい。また、情報社会の浸透・普及に伴い、利用形態が複雑化してきており、新たな局面や対応が必要になってきているのも事実である。今後、総合情報処理センターと各学部間において、より緊密な連携と対応が必要と考える。

## 参考文献

- [1] 医学部サテライト端末の現状と問題点、松谷 秀哉、広報誌 HIROIN、Vol117、  
21-25、2001